

緩和ケアに関する世界各国の状況調査

～Ageing Asia Innovation Forum 2024 in Singapore 参加報告～

日本緩和医療薬学会 副代表理事
国際緩和医療薬学関連開拓タスクフォース
地域連携委員会
在宅医療特化型 カリン薬局 小林 篤史

国際緩和医療薬学関連開拓タスクフォースのメンバーとして、緩和ケアに関する世界各国の状況調査を目的とし、欧米やアジア諸国の緩和ケアについて調査するため「Ageing Asia Innovation Forum 2024 in Singapore」に参加させて頂きました。

「Ageing Asia Innovation Forum 2024 in Singapore」は、世界各国から 6000 人の方が参加されます。会場には新しいテクノロジーが目白押しで、今回のメインテーマは「human oriented(人間本意)」でした。様々な国の先進事例を共有し合えるのが Ageing Asia の面白いところと聞き、日本の「在宅緩和ケアにおける薬剤師の役割（「Home Palliative Care Role of the Pharmacist）」の内容を発表させて頂きました。



↑会場の様子

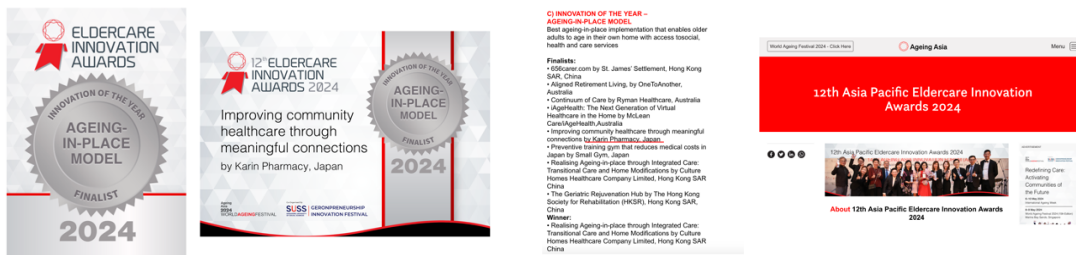
左上：Netherlands の病院で使われているリハビリバイク 上中：Gala Dinner 上右：中国の嚙下食
左下：Marina Bay Sands 下中：light meal service in convention center 右下：Screening site

今年の Ageing Asia では「リハビリ」と「緩和ケア」の2つがフォーカスされています。しかし、いずれも日本での使われ方とは意味とは少し異なるように感じます。「緩和ケア」は、日本以外の国は医学的モデルである Cancer Pain、Heart failure の「症状緩和」に特化せず、Dementia、Senility、Aging などに支援者が感じる苦悩・苦痛を緩和ケアの対象とされており、医療者もそこに積極的に取り組むようです。

Judge による採点がされる中、Finalist として Award を得ることもでき、Grand Prix は得ることはできませんでしたが、自分としては最高の時間を過ごさせて頂きました。Ageing Asia の4日目の夜は Gala Dinner でブラックタイを身につける授賞式に参加させて頂きました。



↑ Gala Dinner 授賞式の様子 ↓ Awards 2024



今回の貴重な経験から日本の緩和ケアと世界の緩和ケアには考え方や活動に、その国の文化や背景が大きく関与していることを知りました。また、薬剤師の役割や薬物療法に対しては、もっと状況調査を行い、日本の緩和ケアを推進していく上でどのような活動をしていくことが理想か？そして、多死化超高齢化社会を歩む日本に安全と安心を提供し、また無駄の無い医療を提供するために薬剤師としての役割をこれからも考えていきたいと思います。

参考) Ageing Asia Innovation Forum 2024 in Singapore HP <https://ageingasia.com>

